

1200万署名・NPT代表派遣 News

発行：原水爆禁止日本協議会 電話：03 5842 6031 FAX：03 5842 6033

Eメール antiatom55@hotmail.com 2009年12月28日 No.22 NPTまであと127日

「核兵器の
ない世界を」
署名

600人を超える自治体首長が署名

日本原水協が都道府県原水協を通じて把握したところ、12月25日現在で、「核兵器のない世界を」署名に賛同した自治体首長は、全国で600人をこえ、1842全自治体の32.6%となっています。

全国の非核都市宣言をしている自治体は1497で、全自治体の81.3%です。

引き続き自治体首長や議会議長などへの署名のお願いのとりくみは重要になっています。

NPT 再検討会議成功を・被爆者を励ますクリスマスパーティー京都



京都に住む被爆者を励ます「クリスマス平和パーティー」（同実行委員会主催）が12月23日、京都市中京区のラポール京都で開かれ、110人の被爆者とその家族、スタッフら200人が参加。来年5月にニューヨークで行われる核不拡散条約（NPT）再検討会議を成功させて核兵器廃絶を実現させようと誓い合いました。

同会議に参加する京都代表のメンバー6人が、「はじめはオバマ米大統領の核兵器廃絶に向けた演説に耳を疑ったが、現実のものになっていると実感している。一緒にがんばろう」「大勢の人が賛同してくれた署名と核兵器廃絶の思いをニューヨークに届けます」とあいさつしました。

子どもたちによる合唱や花笠音頭が披露され、サンタクロースの親子が被爆者にプレゼントを贈りました。

広島で被爆した稲垣ミチエさん（84）は、「毎年パーティーを楽しみにしています。核兵器も戦争も悲しい、なくなってほしい」と力強く語りました。

うたごえ、講演など多彩に学習・交流会開く 奈良

NPT再検討会議に代表を10人送ることと、署名を14万人分集めることを目標にとりくみをすすめている奈良県原水協は12月23日、NPT再検討会議代表派遣と「1200万」署名の成功をめざす学習・交流会を奈良市内で開催し、48人が参加しました。

会では、うたごえサークルの人たちによるうたごえの後、同志社大学名誉教授の望田幸男さんが、「『核兵器のない世界』への希望」と題して講演。望田さんは「政府を動かすことが重要で、その機会が来年のNPT再検討会議。それにむけて大きな行動を」と呼びかけました。

交流では、署名がもうすぐ住民の1割になるという平群町の平和委員会、平和団体が共同して署名センターをつくりとりくみをすすめている生駒市、ねばりづよく継続してとりくんでいる新婦人県本部などが報告しました。

参加者からは「タイミングのよい企画で、わかりやすくとてもよかった」「各地のとりくみに学んで署名活動をすすめたい」といった感想が出されました。



最新情報はコチラ 原水協通信 blog | <http://www.antiatom.org/g-news/>
携帯電話からもアクセスできます。

NPT再検討会議ニューヨーク行動参加者会議を開催 愛知

「行こう愛知」・愛知県原水協は12月23日、70万筆の県目標達成と100人以上の代表派遣をめざし、「NPT再検討会議・N.Y.行動の参加者会議」を開き21団体9地域から55人が参加しました。

澤田昭二県理事長がNPT再検討会議の歴史的な位置付けと核抑止論とのたたかいを語り、大村義則県副理事長が2005年のニューヨーク行動の様子をパワーポイントで報告しました。

活動交流では、目標の5000筆を達成した（愛友会の被爆者代表）近所や知り合い、かつての教え子などに依頼して1000筆近く集めている年金者組合の代表、「署名は生活の一部」として高校門前、大学前に5～6時間も立って学生に訴えている新婦人の代表など、さまざまな分野から発言があり「署名をもっと集めて持って行きたい」「ニューヨーク行動の参加者を増やしたい」という思いが交流されました。

鹿児島県与論町で「平和宣言」

鹿児島県大島郡与論町は、12月18日の議会最終日に、「誠の島の平和宣言」を採択しました。宣言は、オバマ大統領のプラハでの演説や、国連安全保障理事会の決議にもふれながら、「唯一の被爆国として、また国内最大の米軍基地を有する沖縄を指呼の間に望む与論町民は、核兵器のない世界の実現に向け一層関心を持たなければならない」として、核兵器のない世界と恒久平和をめざして宣言しています。議会の委員会では、「宣言」の実践として、「核兵器のない世界を」署名を町民規模ですすめることが提案されています。



茨城県議会が「非核平和県宣言」決議を全会一致で採択

茨城県議会は12月9日、「非核平和茨城県宣言」に関する決議を全会一致で採択しました。宣言は、国連安全保障理事会首脳級会合で「核兵器のない世界の条件創り」をめざす決議が採択されたことにふれ、広島・長崎の悲劇を再び繰り返さないために、核兵器廃絶を強く訴え続けなければならないとしています。茨城県原水協は県被爆者団体とも協力して県知事・県議会議長と懇談を要請することにしています。

30万筆を目標にしている県原水協は12月12日、宣言を刷り込んだ新年6・9行動の案内チラシを常任理事、加盟団体、地域、友誼団体等80箇所に郵送しました。新春第1弾の新年6・9行動は1月6日、11:00から13:00まで水戸駅北口で地域で予定しているところ以外は結集しようと呼びかけています。

被爆者団体協議会代表と署名持って医師会役員を訪問 富山

富山県原水協は12月18日、被爆者の見舞金を被爆者協議会に手渡しました。懇談の中で「核兵器のない世界を」署名の普及を県内の開業医にお願いすることを提起し、医師会の役員を訪問すること、その際に被爆者協議会の代表も同行することを確認しました。その後、老人会や法曹関係へ広げることも考えています。

被爆者援護・連帯もちつき大会、被爆者150人に配布 兵庫

兵庫県原水協は12月23日、神戸市宗教者平和協議会などと共催して被爆者援護・連帯もちつき大会を神戸市兵庫区の妙法華院で行いました。今年で40回目を迎えるもちつき大会には約100人が参加し、150キロのもち米をつきあげました。市民や被爆者らが次つぎにもちをつき、非核の国ニュージーランドから来たタケシ・バーデンさん（16）も初めて杵を握りました。通りかかった人も参加し、「核兵器のない世界を」署名に応じました。

友人と待ち合わせていた専門学校生（20）も署名に応じ、いまだに原爆被害に苦しむ被爆者や被爆2世の話を聞いて「原爆のことは学校で聞いたことがあります。日本で最後にしたいですね」と話しながらつきたてのもちを口に運んでいました。翌24日、県原水協は市内在住約150人の被爆者宅を訪れ、お見舞金とともにもちを配りました。

